

平成25年度における自己点検評価報告書

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
	<p>第2期中期目標・中期計画(5年間の目標)により、津山高専は、高専機構を構成する全高専に対して、教育、研究、社会貢献などの分野で、全高専の平均以上の上位にランクされることを目標にする。この目標実現に向けて、年度ごとに、年度計画に基づく実行計画(アクションプラン)を立案し、それらを着実に実施する。</p> <p>津山高専の目指すもの: ・[学 生] 総合技術力及び人間力のある「真」のマルチ技術者を旨とする学生 ・[教 員] 研究のできる教育者 ・[事務員] 経営力のある事務職員 ・[技術職員] 技術に深みのある総合技術者</p> <p>独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第31条の規定により、平成21年3月31日付け20文科高第8039号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、津山工業高等専門学校は平成25年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。</p>				
	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置				
	1 教育に関する事項				
	(1)入学者の確保				
1	①-1 入試倍率2倍を維持するための具体策を検討し、実施する。	オープンキャンパスパンフレットを早期に配布するとともに入試広報用パンフレットを中学校主催の連絡説明会で配布する。	オープンキャンパスパンフレットは5月下旬に県内外中学校・学習塾へ配布し早めの広報を実施した。リーフレット(3種類)については、進路説明会をする中学校については進路説明会時に、県南及び県外中学校へ送付し広報した。加えて、同時期に学習塾へもパンフレット及びリーフレットを送付し広報した。	○	
2	①-2 県南部地域の受験者増に向けた取組を検討し、実施する。	アドミッションアドバイザーを活用し、特に受験実績のない県南中学校を訪問して、受験者増に取り組む。	アドミッションアドバイザーによる県南全ての中学校訪問を6月上旬から8月上旬にかけて行った。10月からは平成26年度入試の説明、受験希望者等の把握を目的に再度県南の中学校訪問を行った。	○	
3	①-3 入試広報の内容を充実するとともに、積極的な広報活動を行う。	県内中学校及び学習塾との意見交換会を実施し、積極的な入試広報を行う。	6月12日に中学校との意見交換会を実施し、平成25年度の入試報告及び平成26年度の入試方針報告ならびに意見聴取を行った。 なお、学習塾とは参加希望者が少数のため開催を見送り、意見交換は随時行うこととしたが、学習塾からの意見はなかった。	○	
4		他高専と連携し、県南を中心とした広域広報を行う。	アドミッションアドバイザーによる中学校訪問の際に、広島商船と弓削商船についても併せて広報活動を行った。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
5	①-4 本校の創立50周年記念事業実施のため、各実行委員会が担当業務を遂行する。	後援会及び同窓会と連携を図り、平成25年10月26日の記念式典、記念講演会等の実施、並びに50年史・記念誌の刊行など創立50周年記念事業遂行のため、各実行委員会の担当業務を具体的に計画し、実行する。	創立50周年記念講演会、記念式典、記念祝賀会を平成25年10月26日に、化学実験体験教室を翌27日に実施した。記念式典等には来賓・地元関係者・教職員や学生など約800名の出席を得て行い、化学実験体験教室ではノーベル化学賞受賞者で筑波大学名誉教授の白川英樹博士による小中学生の親子(18組36名)を対象とした化学実験を行い化学に対する興味と理解を提供できた。 募金活動においては、目標額に届かなかったものの1,500万円以上の募金額を集めることができ、共用車3台を始め、学生・教職員支援金基金や校旗・バックボードの購入など校内設備・備品等の充実に貢献できた。 記念誌「われら津山高専卒業生50thー世界にはばたく67人のストーリー」を平成25年10つきに刊行し、記念式典来賓者に配付及び年度末に関係者に送付した。 「津山工業高等専門学校50年史」を平成26年3月に刊行し、関係機関及び高額寄付金者に配付した。 記念事業の一環として「1年生校外教育」において、乾康二氏(津山洋学資料館学芸員)、あさのあつこ氏(作家)、高橋慧星氏(作家)、乾 智子氏(放送作家)らの講演を行った。	◎	A
6	②-1 オープンキャンパスを充実する。	例年より早めに広報活動を始め、参加者増に向けて取り組むとともに、卒業生による講演の充実を図る。	5月下旬オープンキャンパスパンフレットを各中学校・学習塾に送付した。オープンキャンパスへの参加者は若干減ったが、中学2年生の参加者が40名程度増えた。 卒業生講演については、各学科講演者を厳選し、バラエティ豊かな講演内容で好評を得た。	○	
7	②-2 女子学生の志願者増に向けて、入試広報リーフレットを改善・充実する。	女子中学生用リーフレットを作成し、広報活動の充実に努める。	これまで作成したリーフレットを踏襲しながら、女子学生の協力を得て、女子学生の日常写真を充実させるなど、わかりやすく明るいイメージのリーフレットを作成した。 また、「高専女子百科Jr.編集ワーキンググループ」を設けて、高専機構全体の方向性を取り入れたリーフレット作成に取組み、3月末に完成した。	○	
8	③ 高専機構が作成した広報資料を活用した広報活動を実施する。	「高専NAVI」及び「キラキラ高専ガールになろう！」の資料を広報活動で配付し、高専制度の周知を図る。	中学校との意見交換会、オープンキャンパスや学校説明会等で配布し周知を図った。	○	
9	④ 優秀な専攻科入学生の確保のための方策を検討する。	優秀な専攻科入学生の確保のための方策を検討するとともに、専攻科説明会及び入試説明会を開催する。	4月9日に保護者を対象に「専攻科説明会」、4月30日に本科在学生を対象に「入試説明会」を実施した。「入試説明会」では修了生による企業経験を中心とした講演が行われ好評を得た。	○	
10	⑤ 各学科等において、学力水準の維持のための取組を検討する。	入学前及び入学後の課題、入学後課題テストの効果を検証し、学力水準維持のための取組を検討する。	入学前後の課題、課題テストの結果(効果)を検証し、学力水準維持に効果的な取組について、教務委員会において検討した結果、次年度についても引続き入学前課題、入学後課題テストを実施することとした。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
11	(2)教育課程の編成 ①-1 特色や地域事情を踏まえ、学科構成や新分野の 学科設置の在り方を検討する。	将来構想検討特別委員会及びその元に設置した3WG (カリキュラム編成WG、教員組織検討WG、教員活動評 価WG)で検討した改組案を12月末までに機構本部へ提 出する。	将来構想検討特別委員会を5回開催(6月・7月・11月・ 12月・2月)し、5月の機構本部理事長との学科改組に関 する懇談会や6月の理事長ヒアリングにおいて指摘を受 けた課題解決のため審議を重ねた。 また、8月には入口・出口の意識調査のため、県内全中 学校及び全国の関係企業に対し、学科改組案に対する アンケートを実施した。 組織体制や新学科名、新カリキュラム内容の特性や特 徴、目玉となる事項などについて、さらに審議を行うこと が必要となり、全学科長を加えた拡大将来構想特別検討 委員会を開催し検討を重ねた結果、改組開始年度を1年 繰り延べて平成28年度開始を目標として、引き続き審議 を推し進めることとなった。	○	
12	①-2 カリキュラムの改革について検討する。	機構本部のモデルコアカリキュラム及び本校の将来構 想(学科改組)の方針に従ったカリキュラムを平成27年 度施行に向けて検討する。	将来構想特別委員会カリキュラム編成WGにおいて、モ デルコア・カリキュラム及び将来構想特別委員会の方針 に基づき、カリキュラム改訂について各学科の洗い出しを 行った。	○	
13	② 専攻科教育の充実について検討する。	各特別研究指導教員の指導内容等について連絡・相談 し、学生状況の把握を充実させるとともに、よりよい学生 指導を行う。	専攻科運営委員会において、各学生の状況(近況)に ついて情報交換した。次年度についても引続き学生状況 の把握に努め、充実した学生指導に役立てることとした。 また、今年度は、2年生全員修了することができ、学位 授与における小論文試験(学修成果・試験の審査)結果 では、全員「可」となった。	○	
14	③-1 退学率、原級留置率を下げる改善策を検討し、実 施する。	入学後の導入教育、FD、教育改革WG及び授業法改 善パートナーシップにおける活動の充実など、退学率、原 級留置率を下げる方策を検討し、実施する。	新入生課題テストの実施、全学生に「津山高専の勉強 法」を配付、授業公開による意見聴取等の授業改善に向 けた活動を行った。 退学率、原級留置率について、退学理由、原級留置者 の成績状況等を教員に公表し、各学科での対応を指示し た。	○	
15	③-2 学生の学習力や学力向上のための方策を検討す る。	「津山高専の勉強法」による学習指導を行い、学力向上 を図る。	学年初めに全学生へ「津山高専の勉強法(平成25年度 版)」を配付し、授業の受け方、自宅での学習法、学習習 慣が定着するよう継続的に指導を行った。	○	A
16	④ 教育の改善及び充実を図る。	全体FD、グループFD及び授業法改善パートナーシップ を活用した教育の改善・充実を図る。	「学科改組の具体化」をメインテーマとして計画し、学科 改組検討の進捗状況を勘案し、今年度は6月に「コース 系の理念を探る 一何を教え何を研究するか」をテー マに、3月に「改組ビジョンと改組推進体制」をテーマに実 施した。	○	
17		授業評価アンケートの集計結果を分析するとともに、教 育目標計画を点検する。それを踏まえ、次年度の教員教 育目標計画を作成するとともに教育の改善・充実を図る。	前期に終了する科目について、授業評価アンケートを 実施した。教育目標計画及び点検票については、前年度 と同様に授業評価アンケート結果にもとづいて、教育目 標計画を点検し、次年度に向けた教育目標計画を立て た。	○	
18		専門技術に対する理解、合宿形式による学生相互間の 連帯感を深めるため、工場見学や合宿研修を行う。	6月に2・4年生全クラス工場見学を行い、専門技術に 関する理解を深めた。 また、10月には学生相互間の連帯感を深め、卒業生の 講演、工場見学等によって将来の人生設計を模索し、知 識、理解を深めための3年生合宿研修を行った。	○	
19	⑤ 学生の意欲向上、高専のイメージ向上につながる競 技会やコンテストへの参加を促進する。	学生の意欲向上、高専のイメージ向上につながる競技 会やコンテストへの参加を促進し、保護者との連携により 支援を行う。	中国地区高専体育大会、全国高専将棋大会に積極的 に参加し、津山高専のイメージ向上につなげた。 遠方で開催される大会の遠征費用等に対して保護者か らの支援は不可欠であり、学生の参加意欲につなが った。		

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
20	⑥ ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動への参加を促進する。	ボランティア活動など様々な体験活動への積極的な参加を促進し、学生会又は寮生会による地域貢献活動を推進する。	1) 津山市内の秋祭りに補助員として協力した。 2) 寮生により放課後に学校周辺や寮内等のゴミ拾いを積極的に行い環境美化に努めた。 3) 学生による地元FM局での番組放送を通じて地域活性化に貢献した。 4) 学生会によるペットボトルのキャップ収集、駅前放置自転車の撤去作業への参加により地域に貢献した。 5) ボランティア同好会による学校近辺の清掃活動も定着している。		
21	(3)優れた教員の確保 ① 優れた教員を確保するため、多様な経験を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。	学科会議等において審議を重ね、研究条件の改善・向上のため週に1日は「研究日」を設けるための工夫・調整を行い、平成25年度には、ほぼ全教員が週1日の「研究日」を設け、博士の学位取得に向け活動を行った。	平成25年度は、7件の人事推薦委員会を設置した。その内6件が公募で3名を採用、2件が公募中で、1件は不採用となった。 公募要件となる公募要領では、応募資格の中で「社会連携活動」や「国際交流活動」に積極的に意欲をもっている者を条件とするなど多方面から教員適合性を審査して選考した結果、多様な経験をもった教員を3名確保できた。	○	
22		多様な経験を持ち、高専の教員として相応しい教育力を十分持っているかを確認するため、教員選考時に模擬授業を実施する。	平成25年度に開催した人事推薦委員会のうち、4件の2次審査(面接)を行ったが、いずれの面接においても模擬授業を実施し、候補者の教員適応性を審査した。	○	
23	② 長岡、豊橋技科大との連携を図るため、「高専・両技科大間教員交流制度」に基づく交流人事を促進する。	高専・両技科大間教員交流制度に基づき派遣及び受入計画を策定し、人事交流を推進する。	平成25年度は、機構本部に対し、教授及び准教授の2名を推薦し、派遣先機関とのマッチングを行った。	○	
24	③ 専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者の割合が専門科目担当の教員については70%、理系以外の一般科目担当の教員については80%をそれぞれ下回らないようにする。	専門科目及び一般科目(理系)の採用人事は、原則として博士の学位取得者とし、一般科目(理系以外)についても修士又は博士の学位取得者としている。専門科目及び一般科目(理系)の教員は92%、一般科目(文系)の教員は90%を維持しつつ、優れた人材の確保のため、研究費等の配慮を行う。	平成25年度も教員公募の教員資格において、修士又は博士の学位取得者(見込みを含む。)を条件とした。 寄付金を除く外部資金(科学研究費補助金や産学連携共同研究費など)を獲得した教員には、間接経費の増率など優れた研究等の実績に対し研究費等の配慮を行った。	○	
25		将来的な改組に向けて、一般科目(理系以外)の教員について、博士に準ずる学位(例えば工学教育士など)を取得するよう促す。	学科会議等において審議を重ね、研究条件の改善・向上のため週に1日は「研究日」を設けるための工夫・調整を行い、平成25年度には、ほぼ全教員が週1日の「研究日」を設け、博士の学位取得に向け活動を行った。	○	
26	④ 男女共同参画社会の実現及び女性教員の活躍推進のため、男女共同参画宣言を踏まえ、実施に向けた方法を検討する。	女子会において、女子学生に対してキャリア教育に関する講演会や体験学習等を企画し、実施する。	1) 公開講座「オリジナル携帯ストラップを作ろう☆」(平成25年11月9日)対象者:女子中学生、講師:趙助教、場所:津山工業高等専門学校 2) 平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」(平成25年11月28～29日)参加者:江原講師、場所:国立女性教育会館 3) 「TKJふるじょくと座談会～高専OGの先生に話を聞こう!～」(平成25年9月30日)対象:女子在校生、講師:教育研究支援センター河原さん、谷口さん(高専OB)、場所:津山工業高等専門学校 4) 機構本部「男女共同参画推進協議会」(平成26年3月12～13日)参加者:江原講師、場所:学術総合センター 5) 「TKJふるじょくと就職・進学講演会」(平成26年3月2日)本科1～4年の女子学生対象、講師:本校卒業生、本科5年生	○	
27	⑤-1 教員の教育力を向上させるFD研修会や、改善に向けての提案事項を全校あげて実施する。	FD研修会を年4回開催し、テーマを定めて全教員が参加できる研修会を実施する。	「学科改組の具体化」をメインテーマとして計画し、学科改組検討の進捗状況を勘案し、今年度は6月に「コース系の理念を探る ―何を教え何を研究するか―」をテーマに、3月に「改組ビジョンと改組推進体制」をテーマに実施した。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
28	⑤-2 技術職員の技術能力の向上を図り、学生教育に反映させる。	技術職員の技術能力の向上を図るため、次のことに取り組み、学生教育に反映させる。 外部資金獲得へ向け、平成25年度の科学研究費の申請結果を精査・検討し、勉強会等を開催して、平成26年度採択を目指し申請をする。	奨励研究に関して近年採択された研究課題を調査し、傾向分析の資料とした。また、「科研申請勉強会」を開催し、専門分野別に意見交換等を行った。(6月11日)。平成26年度科学研究費補助金(奨励研究)の関係書類作成等を計画的に進めるため、科研申請スケジュールを作成し、技術職員間及び教育研究支援センター長の添削を経て、常勤技術職員11名全員が申請した。	○	A
29		技術職員が担当する実験実習(内容・指導方法)の改良及び新テーマの提案を行い、実験実習の改善に取り組む。	学生実験実習等の装置・指導方法などの改善について、実施内容に関する報告書その都度作成し、センター内で回覧して情報の共有を図っている。装置・器具の製作・改良5件、指導方法改善1件、実験方法改善1件の報告書提出があった。	○	
30		専門分野以外の技術習得に取り組むため、技術研修会(各専門学科の1、2年生対象実験内容)を開催し、習得技術の広範化を目指す。	技術研修会で開催していなかった各専門学科1、2年生対象の実験実習内容を選定した。そして、機械工学科1年で行っている機械工学実験実習Ⅰ「仕上げ」を実習する技術研修会を開催した(11月29日)。結果、専門分野以外の技術習得ができ、習得技術の広範化に繋がった。	○	
31		公開講座の開催及び企業等への技術的支援を行い、地域社会に貢献する。	地域貢献の活動として、以下の活動を行った。 1) 地域協力として技術職員主催の公開講座「暗やみでユラユラ光る！PETボトルでLEDランタンをつくろう」を開催した(8月8日)。 ・岡山大学工学部主催工学実験教室「2013小学生のための実験教室」へ協賛して技術協力した(8月6日)。 2) 公開講座の新テーマの試作を行った。 3) 「産業技術能力養成セミナー 機械加工技術教育」の講師として技術協力を行った(9月28日～11月23日)。 4) 企業からの技術相談及び試験・分析の受託を継続的に行っており、今年度の受託は39件あった。	○	
32		技術能力向上を図るため、計画的に技術分野の講習会への受講及び資格取得に取り組む。	1) 機械系・電気系・情報系のセミナーや講習会及び展示会の開催一覧表を掲示し、参加者を募った。(4月) 2) 制御系技術職員1名が国家資格・技術士第二次試験に合格し、技術士(機械部門)として登録を受けた。(4月) 3) 技術職員1名が第二種衛生管理者免許を取得した。(4月) 文部科学省関係機関向け情報システム統一研修(CD-ROM研修)を情報系技術職員1名が受講した。(8月) 4) 新規導入工作機械のレーザー加工機オペレータ研修を機械系技術職員1名が受講した。(8月) 5) 鳥取大学で開催された「機器・分析研究会」に電気系技術職員1名が参加した。(9月) 6) 文部科学省関係機関向け情報システム統一研修(CD-ROM研修)を情報系技術職員1名が受講した。(2月)	○	
33	⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。	本校の先進教育に関する表彰規程に基づき、教育の充実・発展を図るため、各分野で顕著な業績を挙げた教職員を表彰する。	第10回経営戦略会議(25.6.24)及び第4回教員会議(25.7.9)において、「先進教育授業実践賞」に電気電子工学科の准教授1名を、「先進教育課外活動指導賞」に一般科目の教授2名を選考し表彰を行った。	○	
34	⑦ 国内外研究員制度を活用し、教員の研究・研修の参加を促進する。	内地研究員、在外研究員制度を積極的に活用し、若手教員に国内外での研究・研修への参加を促進する。	内地研究員については10月に、在外研究員については7月に全教員に対して募集を行った。 平成25年度は情報工学科の講師1名が、電気通信大学へ平成25年5月1日～平成26年2月28日の期間で内地研究を行った。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
35	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 教材や教育方法の開発の改善に向けた取組を推進する。	英語教育改革WGで開発・編集してきた技術英語テキストを音声化し、授業に有効活用する。	現在、音声化を進めており、完成した後に英語科のホームページ内のe-Learningシステムで活用することを検討している。また、来年度の授業から導入予定で、今年度は試行的に実施を行った。	○	
36	② JABEE認定技術者教育プログラムを点検し、教育の質の向上に努める。	JABEE審査において、より高評価が得られるようプログラムを点検し、改善を図る。	平成26年度のJABEE継続審査に向け、平成25年度は教育システム点検委員会を10回開催し、JABEE評価ワーキンググループと合同で自己点検書の作成に取り組み、2月末に第1稿を完成させた。また、JABEE新基準に対応するとともに学習・教育到達目標を追加・変更し、追加・変更した到達目標に対応する科目設定を見直しと同時にその他の目標に対応する科目についても見直しを行いプログラムの質の向上に努めた。 さらに、JABEEワーキンググループ座長が、11月23日開催の「JABEE審査講習会・受審校向け講習会」に参加し、JABEE認定制度の考え方等について認識を深めた。 加えて、平成26年度に受審予定の「機関別認証評価」と共通する資料などに相違や無駄が生じないよう全体的な観点から資料収集等の整理を行った。	○	
37	③ 他高専、他大学等との学校の枠を超えた学生の交流活動を促進する。	単位互換協定に基づく他機関での単位習得等、学生の交流活動にかかる情報発信を積極的に行い、学生の参加を促進させる。	美作大学との単位互換協定に基づき、今年度は前期2名(受講のみ)、後期3名の学生が美作大学の授業を受け、年度末には後期の1名を除き単位修得(認定)した。	○	
38	④ 教育実践例や取組例について総合データベース「KOALA」を活用する。	教育実践例や取組例について総合データベース「KOALA」を活用する。	本校の教員間ネットワークの実践・取組例を編集し、公表(掲載)した。	○	
39	⑤ 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価への対応を計画的に進める。	平成26年度の認証評価へ向け、研修会に積極的に参加し、自己評価書の概略を完成させる。	平成26年度に受審予定の「機関別認証評価」に向け、平成25年度は教育システム点検委員会を10回開催するとともに、認証評価ワーキンググループと合同で自己評価書の作成を行い、3月初旬に第1稿を完成させた。 6月20日には「高等専門学校機関別認証評価に関する説明会」に、教員及び事務員3名が参加し、認証評価申請手順やスケジュールの確認、調書等作成に伴う具体的な事例など情報収集に努めた。 12月には、学位授与機構から講師を迎えて、自己評価書作成のポイントについての説明会を開催した。 また、教育目標等の認知度に関するアンケートを全学生・全教職員に対して行い、自己評価書の資料に資するとともに意識向上の一助とした。	○	A
40	⑥ 本校独自の海外インターンシップを実施する。	マレーシアにおける日系企業でのインターンシップを企画立案し、実施する。	マレーシアにおける日系企業でのインターンシップについて、8月8～25日にMaruwa Sdn Bhdにおいて専攻科生2名、本科生4名の計6名が参加し実施した。	○	
41	⑦ 退職技術者等を活用した「資格取得講座」などを実施する。	退職者及び企業技術者を活用し、ものづくり技術者の育成を充実・強化する。	今年度採択された「企業技術者等活用プログラム」により、学年別にテーマを設け、起業家による講演やコミュニケーション能力育成講座、マイスター制特別講座、電気工事士の資格取得支援講座などを実施した。	○	
42	⑧ 他機関と連携して、学生教育の質の向上を図る。	学生教育の質の向上を図るため、他機関との連携による取組をさらに推進する。	連携協定締結先(美作大学など)との連携を深めるとともに学生教育の質向上や共同研究への発展の一環として「知の拠点」整備事業として取り組んだ。	○	
43	⑨ 高専IT教育コンソーシアムが開発した高専独自のシステムとコンテンツの利用について検討を行う。	ICT活用教育専門部会のメディア教材の普及に関する学内説明会等を開催し、利活用の促進を図る。	ICT活用教育専門部会が作成したメディア教材について、積極的に利用するための方策を検討した。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
44	(5)学生支援・生活支援等 ①-1 特別支援を要する学生への指導及び支援を実施する。	特別支援教育の体制を強化し、きめ細かな指導を行う。	総合支援センター運営会議を毎月開催し、幅広く情報交換を行い、きめ細かい指導を行った。 新たに精神科医から助言を得る体制を整え、カウンセリング体制を強化した。	◎	
45	①-2 キャリア・アドバイザー制度を検証し、問題点を改善する。	キャリア・アドバイザー制度を検証し、問題点を改善する。	教務委員会及び学生生活委員会から選抜されたメンバーにより制度を検証し、業務推進のための見直しを行った。	○	
46	①-3 学生のモラル向上のため、規則の遵守など生活指導の在り方を検討する。	挨拶運動や交通安全に係る指導を実施する。	毎月、朝の登校指導または校内駐輪場の巡回を実施し、交通安全に対する意識の向上に努めた。 自動車学校での実技講習の実施及び警察署による交通安全講習会を企画し、規則の遵守についての啓発を図った。	○	
47	①-4 課外活動を活性化させ、学校全体の活性化に繋げる。	部活動に原則として1年生全員を加入させ、課外活動の活性化を図る。	1年生全員が何らかの課外活動に参加しており、部員の増加に伴い課外活動が活性化された。	○	
48	①-5 寮生活を通じて人材育成を図るため寮規則の更なる遵守を指導する。	寮で実施する各種講演会、講習会、研修会、懇談会等を通して、寮規則を遵守する精神を涵養するとともにグローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。	1) 4月17日に寮生会が主体となって、津山圏域消防組合から職員を招き、新入寮生防火避難訓練を実施した。 2) 6月18日に津山圏域消防組合から4名の救急救命士を招いて、新入寮生を対象に救急処置実技講習会を実施し、緊急時の対処方法を学ぶことができた。 3) 6月20日の夜に防火委員会が主体となって、全寮生対象に防火避難訓練を実施し、不測の事態への対応の仕方を習得することができた。 4) 10月17日に寮生会が自主的に企画して、指導者研修会を行い、活発な議論を行うことができた。 5) 10月24日に防災委員会が主体となって、全寮生を対象に地震対応の防災訓練を実施し、防災意識を高めることができた。 6) 11月7日に新入寮生を対象に、上智大学産学連携アドバイザーを講師に、寮生教養講座を開催した。将来エンジニアになるにあたって知っておかなければならない知的財産権の基本的な知識を学ぶことができ、これからの研究内容や将来を見据えての勉学の心得等についても貴重な話を聞くことができた。 7) 3月9日に寮生会活動報告会を開催し、北辰寮後援会役員に本年度の活動報告及び意見交換を行い寮生活環境向上の支援要請を行った。	◎	
49	①-6 留学生と寮生との交流を促進する。	留学生と寮生がお互いに情報を交換できる行事を提供し、自由な交流によって国際化を推進する。	9月10日に新入寮生を対象に留学生と語る会を実施し、お互いの国を理解するよい交流の場となった。	○	
50	①-7 他高専寮との交流により、寮生活の向上を図る。	他高専との交流(交換寮生制度)及び寮視察を継続し、寮生間の交流を通じた人材育成や学寮運営能力を養う。	1) 7月22日から5日間、3年生女子寮生2名を阿南高専の学寮に派遣し、7月24日から1週間、男子寮生6名を舞鶴、一関高専の学寮に派遣して情報交換及び高専間の親睦を深めることができた。 2) 9月4日から、阿南、舞鶴、一関高専の寮生7名を一週間受け入れて、寮生同士の交流を深めることができた。 3) 11月16日に幹部役員12名が呉高専の学寮を訪問し、学寮運営能力の向上が図られた。	○	A
51	①-8 寮生の学習習慣を確立する。	寮生の学力を向上させるため「寮内寺子屋制度」を恒常化する。	上級生が講師となって、21時からの一斉学習時間に1年生寮生を対象に週3回学習指導を行い、勉強する意識が高まり、学習習慣の定着につながった。	○	
52	①-9 寮におけるメンタルヘルス支援を実施する。	総合支援センター、学級担任、カウンセラー、看護師、学生寮指導員等との連携を密にし、寮生のメンタルヘルスケアに取り組む。	学生寮指導員が新入寮生と5月から7月にかけて個人面談を行い、また問題を抱えている寮生に対しては、担任、寮務委員、看護師等が直接寮部屋に出向いて寮生の心情を把握するよう努め、寮生も気軽に相談を持ちかける環境ができた。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
53	①-10 寮における学習環境、生活環境の向上を図るための方策を検討する。	寮の学習環境、生活環境の向上を図るため、施設整備や設備等を充実させる。	寮生会幹部と寮務委員が月1回懇談会を開催し、寮生活における要望等を聞く機会を設け、食事で使用するトースター等電気機器を増設するため電源工事を実施し、同時使用が可能となった。そのほか男子浴室の床の張り替えなど生活環境の向上を図った。	○	
54	② 寄宿舎の耐震補強等を含めた大規模改修の計画を行う。	学生寄宿舎整備計画を作成し、平成26年度概算要求事業は、第3寮の耐震補強を含めた改修を要求する。	平成25年6月に機構本部に対し平成26年度概算要求事業として第3寮の耐震補強を含めた改修工事の要求を行った。その後、平成26年2月7日付で上記要求事業に対して平成25年度補正予算の施設整備費補助事業として予算措置がされた。また、平成25年7月に学生寄宿舎整備計画を作成し、機構本部へ提出した。	○	
55	③ 学生に対して奨学金制度を積極的に情報発信し、活用を促進する。	学生に対して各種の奨学金制度を積極的に情報発信し、活用を促進する。	学校紹介リーフレットや募集要項の中で奨学金制度を紹介し、入学前から情報を発信している。また、校内掲示の他、募集案内のチラシ等を、学生が手にとって見ることが出来るよう環境を整えた。	○	
56	④ 進路情報を積極的に提供するとともに、相談体制の充実を図る。	進路情報を積極的に提供するとともに、相談体制の充実を図る。	求人企業の情報や大学情報をWeb上で公開し、会社説明会等の情報を、学生に情報発信している。また、会社訪問の結果のデータ化を図った。 図書館にWeb検索用のパソコンを複数台設置し、学生同士の情報交換の場としても機能している。 外部講師による就職試験に向けた実践的な講座を開催した。	○	
57	⑤ 授業料納付が困難となった学生に対する経済的支援を検討する。	授業料納付が困難となった学生に経済的支援を検討する。	学校紹介リーフレットや募集要項の中で奨学金制度を紹介し、入学前から情報を発信している。 また、校内掲示の他、募集案内のチラシ等を、学生が手にとって見ることが出来るよう環境を整えた。	○	
58	(6)教育環境の整備・活用 ① 平成25年度施設整備計画書により、計画どおり実施できるよう概算要求等を含む学内外の予算確保に向けて努力する。なお、ユニバーサルデザインの視点からの施設整備充実、エレベータの増設等、就学環境の向上に努める。	平成25年度施設整備計画書を作成し、計画書に基づき営繕要求を行う。 また、図書館・総合情報センター改修及び第2寮改修(耐震補強含む)工事を実施する。	平成25年4月に第1回施設設定ワーキングを開催し、平成25年度施設整備計画書を作成した。平成25年11月に機構本部に対して平成26年度営繕要求を行った。(ボイラー棟改修、情報工学科棟他屋上防水改修) 平成25年3月27日に図書館・総合情報センター改修工事の契約を行い、平成25年10月23日に完了した。 また、平成25年8月30日に第2寮改修工事を契約し、平成26年2月28日に完了した。	○	
59		ユニバーサルデザインの導入を推進し、安全な通路等の整備を図る。 また、校内バリアフリー計画の見直しをする。	平成25年4月に第1回施設設定ワーキングを開催し、バリアフリー計画の見直しを行った。 また、平成25年10月23日に完了した図書館・総合情報センター改修工事において、身障者対応エレベータの設置及び玄関周辺の通路へのスロープの設置を行った。	○	
60	② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の充実を引き続き図る。 また、省エネ化対策方針に基づき、省エネ化を推進する。	平成25年度営繕要求事業(ボイラー室改修、情報工学科棟屋上防水改修、部室改修)が予算措置され次第、執行業務にとりかかる。	平成25年度営繕要求事業は、予算措置されなかったため、改めて、平成25年11月に機構本部に対して平成26年度営繕要求を行った。(ボイラー棟改修、情報工学科棟他屋上防水改修)	○	
61		省エネ型外灯への更新を進める。	平成26年2月に省エネ型外灯の追加設置を行った。 また、寄宿舎第2寮の寮室内・廊下の全ての照明器具及び管理・一般科目棟内の一部の照明器具をLED照明に更新した。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
62	③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、引き続き安全衛生管理のためのAED講習等を実施する。	学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、本校独自に作成した「安全の手引き(第二次改訂版)」も併せて配付する。 また、安全衛生管理のためのAED講習、メンタルヘルス講習会等を企画する。	1) 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付した。(4月) 2) 本校独自に作成した「安全の手引き(第二次改訂版)」を配付した。(4月) 3) 安全衛生管理のためのAED講習会「普通救命講習1」を、平成26年12月19日(木)に津山圏域消防組合から講師を招き、教職員を対象に国際交流ホールにおいて実施し、教職員24名が受講した。講習会では、救急処置の重要性や必要性についての講義の後、実際に人形を使用し、心肺蘇生法から自動体外除細動器(AED)の使用方法などの実技講習を行った。 4) 平成26年2月24日に専門医師を招いて、教職員を対象に、学生の自殺予防とメンタルヘルス講演会「青年期における精神科の受診状況～医療機関での青年期の支援～」を開催した。	○	
63		教職員及び学生合同の防災訓練を実施する。	全ての教職員及び学生を対象に地震及び火災を想定した防災訓練を平成25年6月18日に消防署の立会のもと開催した。	○	
2. 研究に関する事項					
69	① 科学研究費等の外部競争的研究資金を積極的に獲得する。	科学研究費や競争的資金獲得に向けて説明会等を開催し、積極的な応募を推進する。	7月22日に科学研究費の学内説明会を開催し、過去に採択経験のある教員から申請書の書き方の工夫など具体的な内容について発表を行った。また、各種助成金については、公募情報を一覧(公募があるたび情報を追加)して申請を促した。	○	A
70		引き続き地域企業との共同研究を推進する。	コーディネータの企業訪問等により、積極的に共同研究推進活動を行った。昨年度から県南企業への訪問にも力を入れており、県南企業との新規共同研究契約も締結した。	○	
71	②-1 研究成果を社会に情報発信する。	多様な研究成果や取り組みについてリポジトリへの登録を促進する。	紀要及び各センター報最新号掲載論文等を登録した。	○	
72	②-2 産学官連携を促進するため、外部組織の連携協力・協定の促進や各種事業へ積極的に参加するとともに、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。	つやま新産業創出機構と連携して、津山高専技術交流プラザ交流会会員企業への出前講座等を開催するとともに、津山高専技術交流プラザ交流会に教員を積極的に参加させ地域企業との連携を深める。	津山高専技術交流プラザ会員企業からの要望に基づく出前講座を26回実施した。 また、総会、交流会(3回)を開催し、毎回多くの教員が参加した。	○	
73		豊橋技科大や長岡技科大との共同研究を積極的に実施する。	豊橋技科大、長岡技科大とも2件ずつの共同研究が採択となり、共同研究を実施した。	○	
74		対象地域を広げた企業訪問を引き続き推進し、新たな共同研究企業の開拓を図る。	コーディネータによる県南企業への重点的な訪問により、技術支援団体である津山高専技術交流プラザに新たに7社加入し、総会員数は67社となった。 また、そのうちの1社と共同研究契約を締結した。	○	
75	③ 研究成果としての知的財産の確保と、その活用について引き続き検討し実施する。	教員に対して知的財産に対する啓発活動を実施するとともに、特許申請及び実用化に向けた取り組みを推進する。	上智大学の産学連携アドバイザーを招聘し、11月8日に教員向けに知的財産に関する講習会を開催した。 また、特許の実用化に向け、新たにコーディネータを採用して複数の企業との具体的な交渉を行った。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
	3. 社会との連携、国際交流等に関する事項				
76	①-1 「地域共同テクノセンター」などを活用し、積極的に産学連携を推進する。	「地域共同テクノセンター」を中心として、企業からの技術相談に対応し、企業訪問、研究室訪問を実施する。	津山高専技術交流プラザ会員企業への企業訪問を11月5日に、津山高専技術交流プラザ会員に対しての研究室訪問を11月21日に実施し、相互理解を深めた。	○	
77	①-2 地域貢献として、近隣の自治体などとの連携事業を実施する。	津山市立図書館・美作大学図書館・津山市内の高校図書館との連携協定による相互貸借等を実施し、共同でのイベントを開催することにより、相互交流を図る。	美作大学・津山高専・津山工業高校各図書館と貸出ランキングを共同で作成した。 また、美作大学・津山高専と図書委員等の交流会を開催し、活動報告及び意見交換を行った。	○	
78		近隣の自治体との連携を推進する。	地元津山市の成長戦略策定やスマートシティ実証実験への協力、来年度の地(知)の拠点整備事業への再申請に向けて近隣自治体との打合せを実施したほか、担当者レベルでの打合せを定期的に行い、情報交換・情報共有を促進した。	○	
79	② 高専の持つ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、高専における教員の研究分野やその内容などの情報を発信する。	産学連携に関するメールマガジンを発信する。 改訂したシーズ集を企業等に配布するとともにホームページに掲載する。 地域共同テクノセンター報を企業等に配布する。	産学連携に関する様々な情報を毎月メールマガジンとして会員企業へ発信した。 また、シーズ集を改訂して作成、ホームページへの掲載を行った。地域共同テクノセンター報を6月に作成し、企業等へ配付を行い広報した。	○	
80	③ 地域の小中学生に対して、理科に興味を持たれる教育の活動を行う。	小中学生を対象とした出前授業や公開講座、科学教室の開講により、積極的に理科の楽しさに触れさせる機会を提供する。	出前授業や公開講座、科学大好き岡山クラブを延べ50回開催し、地域の小中学生への理科啓発活動を活発に開催した。	◎	
81	④ これまで実施した公開講座の実施状況やアンケート結果を踏まえ、ニーズに応じた公開講座等を地域に提供する。	一般利用者向けの図書館講習会を開催する。	改修工事によってリニューアル・オープンした本校図書館内を案内し、新たな設備等について説明する図書館見学ツアーを開催した。	○	
82		これまで実施した公開講座の実施状況やアンケート結果を踏まえ、新たな講座を加えた公開講座を実施する。	これまで実施した公開講座の実施状況やアンケート結果を踏まえ、1講座について、内容を変更して実施した。 また、一般市民向けの講座をワークショップという形で新たに実施した。	○	
83	⑤ 同窓生や高専OB、OGとの連携を促進する。	卒業生へのG-mailアドレスの配付を行い、情報発信を充実させる。	卒業生・修了生を対象にG-mailアドレス配付についての案内を行った。	○	
84	⑥-1 学術・交流協定に基づく海外の協定校との交流・連携を推進する。	学術交流協定に基づく海外の協定校との交流・連携を推進する。	モンゴル、中国の協定校とは、50周年記念式典への出席を要請し、来日時に研究打合せや今後の交流について意見交換を行った。 また、中国の協定校には研修で学生及び教員を派遣した。	○	A
85	⑥-2 中国地区高等専門学校学生国際交流支援コンソーシアム事務局として、各高専と連携して事業を実施する。	中国地区8高専で連携し、海外協定校での研究発表や留学生交流シンポジウムを企画し実施する。	10月12～14日にかけて、中国地区高専留学生交流シンポジウム(参加者50名:引率教職員は除く。)を山口県で実施した。 また、海外協定校での研究発表会(参加者12名:引率教職員は除く。)については、11月12～16日にかけてフィリピンにおいて実施した。 さらに、2月28～3月16日にかけてシンガポールにおいて技術英語研修(参加者8名:引率教職員は除く。)を実施した。	◎	
86	⑦-1 海外への留学を希望する学生に対する支援方策を検討する。	海外留学又は奨学金等に関する情報を学生に対して積極的に発信し、参加を促進する。	機構本部が企画したISTS(International Symposium on Technology for Sustainability)の情報提供を積極的に行った。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価	
87	⑦-2 外国人留学生の受入れ拡大のための方策を検討する。	機構本部が実施する私費外国人留学生を積極的に受け入れる。	本校の方針(積極的な留学生受入)により、今年度についても外国人学生(私費)対象の3学年編入学試験に参加した。本校を希望し、機構本部が定める基準に達し、学生現員を考慮しながら基本的に受入する方針で選抜した結果、1名の合格者を決定した。	○	A	
88		アジア地域の言語で書かれた資料を充実させ、留学生が図書館で学習しやすい環境を整備する。	インドネシア語など東南アジア系の言語で書かれた理工系の図書16冊を新たに配架した。	○		
89	⑧ 外国人留学生に対して、異文化に触れさせ相互理解を図るための研修等を企画し実施する。	中国地区高専の留学生と日本人学生が交流するシンポジウムを開催する。また、科学Tryアングル岡山の事業として、岡山大学・岡山理科大学・倉敷芸術科学大学との共催で、留学生研究交流会を実施する。	10月12～14日にかけて、中国地区高専留学生交流シンポジウムを山口県で実施した。 また、科学Tryアングル岡山の事業として、10月19～20日にかけて岡山県内において留学生研究交流会を実施した。	○		
90		留学生とチューターが参加する国内研修旅行を行い、我が国の歴史・文化・社会に触れさせる。また、地元自治体や近隣学校との連携により、地域住民との交流を図る。	今年度は、11月に歴史・文化に関連した奈良・京都方面へ、3月に広島方面への見学旅行を実施した。 また、1月に鶴山小学校訪問に参加し積極的に地域との交流をした。	○		
4. 管理運営に関する事項						
91	①-1 校長裁量の競争的資金を増額し特徴のある研究並びにプロジェクト研究等に再配分する。	管理運営経費及び教員研究費を圧縮して、校長裁量経費を増額し、競争的資金として特徴のある研究並びにプロジェクト研究等に再配分する。	管理運営経費を圧縮させ、校長裁量経費を平成24年度と同額確保し、競争的資金として特徴のある研究並びにプロジェクト研究等に再配分した。	○		
92	①-2 コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを配付し、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	コンプライアンスに関するセルフチェックを行い、教職員のコンプライアンスの意識向上を図る。	平成25年10月30日に全教職員を対象に「コンプライアンスに関するセルフチェックについて」依頼を行い、平成24年度に配付した「コンプライアンス・マニュアル」により個人ごとに自己点検を行い、チェックリストの提出を依頼し、全教職員から提出があった。	○		
93	①-3 内部牽制体制を見直しを図る。	研究費等の不正使用防止のため、物品等現物への検収印押印に向けた具体策を検討する。	パソコン、デジカメ、什器類など耐久性のある消耗品について、現物への検収押印を3月20日から実施した。	○		
94	①-4 機構本部との緊急時の連絡体制の強化を行う。	機構本部から配付されたPHS携帯電話4台を適正に設置し、緊急時に備える。	常に即使用できるように充電した状態で総務課及び学生課に設置しており、夏季や年末年始の休暇などでは、管理職員や担当者に携帯させて緊急時に備えた。	○		
95	② 新任教員を対象とした「新任教員研修」を、企画し実施する。	教員としての心構えを自覚させるとともに、本校の主な組織の概要等を学ぶことを目的とした新任教員研修会を開催する。	平成25年4月3日において、平成25年度に新たに採用された教員3名及び事務職員4名を対象に「新人教員研修」を開催した。 オリエンテーションに引き続き、校長講話、教務主事から津山高専の教育方針と特徴・授業や試験の実施方法と対応・授業改善や研修活動など教務について、寮務主事から学寮の役割・運営組織・学寮規制・宿日直要領(緊急時対応含む)・寮生への接し方など寮務について、学生主事から学生会組織・課外活動・交通ルール・生活指導など学生生活について、総務係(変形労働・振替・代休、兼業、サービス)・施設係(営繕工事申請、鍵の複製)・学生生活係(課外活動許可・報告関係)・教育研究支援センターの業務内容など事務分掌・管理部門について、それぞれレクチャーを行った。	○		
96		国立高等専門学校機構本部が主催する研修会に積極的に参加させる。	新任校長研修会(4.11)、機構本部新任教員研修会(8.28～30)に参加した。	○		
97		新任教員を対象とした、電子ジャーナルやデータベース、図書館資料の活用についての講習会を実施する。	今年度の新任教員4名に対し、それぞれ個別に電子ジャーナルやデータベース、図書館資料の活用についての講習会を開催した。	○		
98	③ 「事務マニュアル」を随時改訂する。	継続的に業務の見直し及び改善を促進し、事務マニュアルの更新を図る。	組織立った事務マニュアルの更新は行わず、各課(室)あるいは各係単位で、継続的に業務の見直し及び改善を促進した。	○		

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校 評価	三段 階 評価
99	④ 事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員を表彰する。	津山高専事務部業務改善提案制度に基づき、業務の簡素化・効率化、経費削減、安全管理及び人材育成等の業務改善を提案する。また、特に高く評価できる成果が認められる場合は、当該提案者を表彰する。	毎月開催される事務系連絡調整会議において、業務の簡素化・効率化、経費削減、安全管理及び人材育成等の業務改善を提案し審議を行った。 また、機密文書の処理業務の効率化及び経費削減の実施に取り組んだことが高く評価できる成果として認められた財務係を中心とした総務課グループに対し、機構本部の平成25年度「職員表彰」の推薦を行った。	○	
100		国立高等専門学校機構本部、国立大学法人、社団法人国立大学協会、人事院等が主催する研修会に積極的に参加させる。	機構本部初任職員研修会(4.22~24)、中国地区係長研修(6.4~6)、情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会(5.24)、中国地区中堅係員研修(7.2~5)、機構本部新任課長補佐・係長研修会(7.9~10)、機構本部人事事務担当者(初任者)・本給決定担当者説明会(7.23~25)、人事院中国地区課長補佐研修(9.10~12)、機構本部人事事務担当者説明会(8.8~9)、タイムマネジメント研修(9.9)、中国・四国地区国立大学法人等係長研修(10.23~25)、人事院中国地区メンター養成研修(11.6)、人事院中国地区セクシュアル・ハラスメント防止研修指導者養成コース(11.7)、岡山大学事務系職員情報教育研修(10.16~17)、機構本部中堅職員研修会(11.20~22)、中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会・労働安全衛生管理担当役員会(11.28~29)、岡山大学人事交流者等懇談会(12.14)、岡山大学「生涯生活設計セミナー」(1.23)の研修等に参加した。	◎	
101		スキルアップ、資格取得のための研修に参加させるとともに、受講料等を支援する。	衛生管理講習会等、技能講習・安全衛生教育等の講習会や研修に対し、平成25年度も引き続き受講料等の支援を行った。	○	
102	⑤ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。	他高専及び国立大学等との人事交流を積極的に推進する。	国立大学法人岡山大学事務職員との人事交流、及び機構本部・他高専への事務職員の派遣など積極的な人事交流を行った。	○	
103	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教職員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。	運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。	管理的経費については見直しを行い、年間契約によらないものについては昨年度予算配分額の△3%を配分することで、業務の効率化を図った。	○	
104		アウトソーシングの見直し等を進め、経費節減を図る。	経費節減(省エネルギー対策)の取り組みについて、以下のことを実施した。 1) エアコンの設定温度を夏期28℃・冬期20℃で管理する。 2) 照明を必要最小限に使用する。 3) 計画的に照明をLEDに交換する。 4) 便所内のウォシュレット温水・暖房便座の設定を「切」にする。 5) 電気ポットを必要最小限に使用する。 6) 電気給湯器の電源を停止する。 7) 寄宿舎浴室用の給湯は、夜間電力を使用して沸かす。(エコキュート) また、ETCマイレージサービスを利用し、高速道路等の通行料金の削減に努めた。	○	A
105		管理的経費について、予算編成での抑制を図る。	旅費、職員厚生費、消耗費、自動車維持費など年間契約によらないものについては、当初配分において、昨年度予算額の△3%を配分し、予算の抑制を行った。	○	

No.	平成25年度 年度計画 (津山工業高等専門学校)	平成25年度年度計画の 具体的な課題・取組 (津山工業高等専門学校)	平成25年度実績報告書	学校評価	三段階 評価
106	Ⅲ 予算 (人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画) 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現、共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	予算の計画的かつ適正な執行を実施するため、随時周知を行う。	10月以降、随時、執行状況の通知を行い、適正な執行を図るとともに、備品、総額50万円以上のもの、及び納期のかかるものについては、なるべく早く購入依頼書を提出するよう促した。	○	A
107		外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	7月に科学研究費の学内説明会を開催し、過去に採択経験のある教員から申請書の書き方の工夫など具体的な内容について説明会を開催した。また、引き続き教員同士で査読を行い、内容の充実を図った。 コーディネータの企業訪問等により、積極的に共同研究推進活動を行った。昨年度から県南企業への訪問にも力を入れており、県南企業との新規共同研究契約も締結した。	○	
Ⅳその他主務省令で定める業務運営に関する事項					
108	1 施設・設備に関する計画 施設・設備等の実態調査を踏まえ、教育研究の推進や福利厚生改善に必要な施設・設備に関する整備計画策定を推し進める。特に、校内バリアフリー化の年度計画及び省エネ化対策方針に基づく省エネ化を確実に進める。	施設・設備等の実態調査を踏まえ、教育研究の推進や福利厚生改善に必要な施設・設備に関する整備計画を策定する。 また、校内バリアフリー計画の見直し及び省エネ化対策方針に基づく省エネ化を進める。	平成25年4月に第1回施設設定ワーキングを開催し、平成25年度施設整備計画書の作成及びバリアフリー計画の見直しを行った。 また、平成25年7月に学内全体に対して学内の改修・修繕の要望を募った。 上記の計画書及び要望事項等を基に、平成25年11月に第2回施設設定ワーキングを開催し校内整備事業を検討した。その結果、研究室・教室等の改修を平成26年3月に行った。	○	A
109	2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種の研修会に積極的に参加させる。	2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種の研修へ積極的に参加させる。	内地研究員として、情報工学科の講師1名が、電気通信大学へ平成25年5月1日～平成26年2月28日の期間で内地研究を行った。国立大学法人岡山大学事務職員との人事交流、及び機構本部・他高専への事務職員の派遣など積極的な人事交流を行った。 中国地区教員研修(平成26年3月17～18日)や人事院主催の中国地区係長研修(平成25年6月4～6日)など、教員、事務職員を問わず、授業あるいは業務に支障の無い範囲で積極的に各種の研修に参加し、多様な人材育成を図った。	○	A
110	(2)人員に関する計画 欠員補充の計画は早急に行い、学校運営に支障をきたさないよう、早めに公募等の作業に取りかかり、業務の合理化・効率化を図る。 また、法令で置くことを定められている資格を有する職員の育成を計画的に行う。	(2)人員に関する計画 欠員補充の計画は早急に行い、学校運営に支障をきたさないよう、早めに公募等の作業に取りかかり、業務の合理化・効率化を図る。 また、法令で置くことを定められている資格を有する教職員の育成を計画的に行う。	教員の辞職などが確定した時点で、直近の経営戦略会議において「人事推薦委員会」の設置承認、運営会議での報告を行い欠員期間の短縮に努めた。 また、採用に係る行政手続きを1月以内に行うなど採用に係る業務の迅速化を行った。 技術職員1名が第二種衛生管理者免許を取得した。(4月)	○	A

学校評価

- ◎…計画を上回って実施している
- …計画を実施できた
- △…計画を十分に実施できていない
- ×…計画を実施できていない

三段階評価の基準について

- 「A評価」…◎または○が75%以上の項目
- 「B評価」…◎または○が74～50%の項目
- 「C評価」…◎または○が50%未満の項目